

## 地域包括ケア病棟の業務改善に向けた取り組み

4階東病棟 ○宮崎こずえ 後藤英和 村田義昭 岡史恵 藤永梨沙 満永亜由美

【目的】地域包括ケア病棟は、急性期治療後のリハビリテーション・在宅復帰支援・在宅療養中の患者を受け入れる役割を担っている。業務が煩雑化している状態は、その日の業務を終わらせることで精一杯となり、看護師として目指す看護が十分にできず、もどかしさを感じていた。更に超過勤務も続きストレスの一因となっていた。

そこで、現状を把握し業務改善を行い看護の質の向上と超勤減少に繋がりたいと考えて取り組んだ。

### 【方法】

#### 1 4階東病棟の業務量調査

#### 2 改善点の抽出

(1)申し送り時間の短縮化・PHS担当・リーダーシート記載内容見直し

(2)ポケットチャート・ノート型電子カルテの活用・ワゴンの屋台化

(3)地域包括ケア・退院支援カンファレンス記録の作成・一部業務別化・遅出業務の導入

#### 3 申し送り時間の調査

【結果】業務量調査の結果、記録は他の業務時間に比べ2~3倍以上の時間を要していた。申し送り時間調査の結果では、転入・入院患者数の受け入れ増加で申し送りが増すことやナースコール・電話対応・医師からの指示受けで申し送りの中断あり時間が長くなっていた。対策としてPHS担当を決め申し送りの中断を減らすことができた。リーダーシートは記載内容を決め、記載したことは伝達しない様にした。申し送り時間の目標を決め、時間を意識して行ない患者一人当たりの申し送り時間が71.5秒から66秒に短縮となった。

台車を屋台化し、ラウンド時にノート型電子カルテも持参し、病室の患者の側で記録を行うことでナースステーションでの記録の時間短縮やナースコール対応を減らしケアの時間を増やせた。入院・転入時は患者情報を掲示板とテンプレートの2か所に記載していたが、専用のテンプレートを作成することで一元化でき、地域包括ケア・退院支援カンファレンス記録として活用できている。

【考察】リーダーシートへの記載内容を決め夜勤者が記入し、その記載内容は口頭では伝えず、時間を意識して申し送りを行うことで申し送り時間の短縮ができると考える。

また、PHS担当を決め医師の指示受けや検査・ナースコール対応を行い申し送り時間の中断を減らすことができたと考える。ラウンド時にノート型電子カルテを持参し記録や指示確認などを行ったことでナースステーションに戻る回数が減った。無駄な動線を省くことは、時間の短縮に繋がったと考える。

診療報酬改定に伴い、2024年6月から眼科患者受け入れが他病棟へ変わり、直入率やDPCを考慮した転入・入院患者受け入れが増えている。看護師の退職により、看護師一人の受持ち患者が増え、超過勤務が生じる結果となった。

今後は、他職種との連携促進と役割分担を明確化し、タスクシフト・シェアリングを行うことで業務の効率化を図り、看護の質の向上や超過勤務を減らすことが課題であると考ええる。